

2011年3月期第3四半期決算 決算説明会 Q&A (要旨)

【第3四半期の業績および今期の見通しについて】

Q：粗利率が改善した理由を教えてください。

A：外注費の適正化、経費削減、減価償却費の減少の順で寄与している。また、コンサルティングの収益性が改善しているのも大きい。

Q：上期で30億円前後、不採算案件が出たが、それらはもう終息した？

A：まだ完全にではないがほぼ終息しつつある。

Q：コンサルティングの改善要因は？

A：リーマンショック以降、厳しい事業環境が続いてきたが、顧客のグローバル化対応などの案件が動き出した面もある。また、営業活動を強化していることで案件獲得の確率も上がってきていると思う。

Q：同業他社の決算発表のなかで、12月以降、ITサービスの受注環境が悪化しているという話があったが、NR Iの事業環境認識は？

A：ここに来て特に悪化している状況ではないが、厳しい事業環境であることには変わらない。

Q：不採算案件で追加のコスト引当が第4四半期に発生する可能性は低いと考えてよいのか？

A：現時点ではとくに想定していない。

Q：過去に第4四半期でソフトウェア評価減を行なったことがあるが、現在、見えているところがあれば教えてください。

A：まだ分からないが、現時点では大きなものが出るとは認識していない。

【来期の業績見通し】

Q：来期はどれくらいの業績成長が期待できそうか。

A：まだ来期の業績予想は確定していない。ここ最近、厳しい業績が続いたので、来期こそは今期の不採算案件による落ち込みをカバーするとともに、それに加えてなんとか増収・増益を目指す意気込み。

Q：証券業の主要顧客の大型プロジェクトが今後スタートしていく中、全体でそれほど増収が見えていないのは、その他の部分の減収が見えているためなのか。

A：他の特定業種が今期よりも大きく落ち込むことは今のところ想定していない。また、大型プロジェクトの来期業績への寄与については現在検討中。

・本資料は、2011年3月期第3四半期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。

・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送を行わないようお願いいたします

Q：保険業向けは来期も良くなるのか？

A：既存顧客向けや業界再編関連の案件により、堅調な推移をと思う。

Q：第3四半期の粗利率は30.4%を達成したが、この水準は今後も維持できる水準と考えてよいか？
また、来期以降、中長期の成長に向けた投資の方針は？

A：粗利の水準は、今後も健全なレベルを維持していきたい。30%になるかどうかはまだ検討中。
その期だけ利益を出すのではなく、中長期の成長をしていきたいと考えている。そのため金融業で新しいASPをつくり、顧客を増やしていきたい。今期は思うように行かなかった面もあるが、製造・サービス業向けでも顧客を増やしていきたい。販管費は依然高い水準にあるが、来期に向けても研究開発、営業活動、仕込みの活動は続けていきたい。

Q：今期は外注費を削減しているが、来期もこの水準で推移していくのか？

A：引き続き外部委託費をコントロールした状態で推移すると思うが、期中に大きなプロジェクトがあれば外注費は増加する。

【その他】

Q：証券業の主要顧客のSTAR-IV導入で、来期以降の業績寄与についてももう少し細かく教えてほしい。

A：フィット&ギャップ分析を受けて、現在、精査中。NRIの投資部分がどの程度なのか、どのスケジュールでどの部分をやるかなど、大枠の議論の結果を待つ必要がある。さまざまなパラメーターが関係しており、今の段階でより詳細なことを申し上げることは難しい。

Q：I-STAR/GVというグローバル展開する証券会社の海外拠点向けASPを作るということだが、従来国内のホールセール向けだったものをもっと海外に広げていく方向か？

A：I-STARは従来日本に来ていた外資系証券会社に提供してきた。一方、日本の証券会社の海外拠点に展開している会社に安くて使いやすいソリューションがほしいと言われていたが、今回、I-STAR/GVとしてそれが実現でき、喜んでいる。

以上